



櫻花分報

第二十號



東 京 第 一 の 流 行 品

醫 藥 博 士 賞 讚 香 尾 一 等 軍 醫 發 明

高 貴 御 用 新 案 特 許

美 顏 夕 才 ル



社 會 の 進 歩 に 伴 っ て 發 明 せ
ら れ た る 家 庭 用 美 顏 器 な
れ ば 貴 顯 淑 女 の 賞 讚 嘖 々

此 夕 才 ル 美 顏 術 が テ キ マ ス 。
本 品 は 藥 理 の 作 用 に よ り
色 を 白 く し さ め を よ く し
皮 膚 病 を 全 治 す る 事 絶 妙

定 價 特 種 製 甲 美 顏 營 養 料 付 分 日 十 百 圓 壹 金
美 顏 營 養 料 付 分 日 十 五 百 圓 五 拾 六 金

發 賣 元 東 京 電 話 三 三 九 一 區 新 富 町 四 丁 目 一 番 五 地 藤 伊 商 店
特 約 店 東 京 電 話 三 三 九 一 區 新 富 町 四 丁 目 一 番 五 地 藤 伊 商 店
東 京 電 話 三 三 九 一 區 新 富 町 四 丁 目 一 番 五 地 藤 伊 商 店
東 京 電 話 三 三 九 一 區 新 富 町 四 丁 目 一 番 五 地 藤 伊 商 店

會 告

拜 啓 坪 井 玄 道 先 生 謝 恩 金 領 收 期 限 は 本 年 十 一 月 末 日 の 處 都 合 に よ り
更 に 來 る 十 二 月 十 日 迄 延 期 致 候 間 未 た 御 申 込 な き 方 は 此 際 奮 て 御 加
入 下 さ れ た く 候

明 治 四 十 二 年 十 月

櫻 蔭 會

會 員 各 位

(領 收 金 第 一 回 報 告)

金 額
一 金 壹 圓
一 金 五 圓
一 金 五 圓
一 金 壹 圓
一 金 壹 圓
一 金 貳 圓
一 金 壹 圓

金 額
一 金 壹 圓
一 金 壹 圓
一 金 壹 圓
一 金 壹 圓
一 金 壹 圓
一 金 貳 圓
一 金 壹 圓

金 額
一 金 壹 圓
一 金 壹 圓
一 金 壹 圓
一 金 壹 圓
一 金 壹 圓
一 金 壹 圓
一 金 壹 圓

會 報

一

櫻蔭會々報第貳拾號 (本會振替貯金第六五八九番)

目次

本會記事 一

第六回總會 一

役員會并に決議要項 二

櫻蔭會第六年度決算報告 五

同 第七回會計豫算 七

會費完納の諸君 九

第六回庶務報告 九

客員會員の動靜 十一

通信 十四

- 奈良高等師範學校より越智キヨ 十四
八王子より 寺島さく 十九
石川より 駒井依 二十
趨町より 秦利舞 二十二
趨町より 三輪田秀 二十三
佐賀より 鍋島やす 二十五
大阪より 宇田くに 二十六
福井より 稻葉てつ 十八
芝より 大塚とき 二十
京都より 大塚美禾 二十一
甲州より 内藤知字 二十二
静岡より 池側ゑい 二十四
島根より 薩埵和榮 二十五

東京女子高等師範學校彙報 二十八

職員異動 二十八

修學旅行 二十八

郊遊會及運動會 二十八

本校入學試験 二十九

書 三十

經濟地理世界物産誌に就きて 三十

新調味料「味の素」に就て 三十六

文苑 三十九

和歌 數首 三十九

同 下田たづ子 三十九

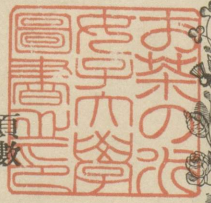
報 四十一

同 衷子 四十一

報 四十三

- ▲藥で病氣は癒らぬ
▲笑はれる力
▲英國貧民救助費
▲全國幼稚園の現況
▲全國小學校兒童數
▲大日本教育團講習會に於て新歸朝者佐々木講師英獨教授法の特徴に就いての談話
▲盲啞卒業生收入
▲石油から牛酪
▲佛國人口増殖案
▲希臘を亡ぼしたは蚊
▲砂糖の殺菌力
▲都市生活に於ける瓦斯

廣告 四十三



す辱を榮光の上買御省内宮は品本

十一尺既
十一尺可
出條袋長六尺

製郎三啓原須京東

ムーリク出ノ日料顔美

？密秘ルナト人美

色白クナルオレンジ水
美顔料日ノ出クリーム、白色劑オレンジ水、日ノ出煉、
椿、香油ヲ使用アレ必ズ美人トナルベシ、美ハ愉快ヲ覺
エ、精神ヲ爽快トス美ハ實ニ自他共ニ一生ノ幸福ナリ

美顔料日ノ出クリーム、白色劑オレンジ水、日ノ出煉、
椿、香油ヲ使用アレ必ズ美人トナルベシ、美ハ愉快ヲ覺
エ、精神ヲ爽快トス美ハ實ニ自他共ニ一生ノ幸福ナリ

美顔料日ノ出クリーム、白色劑オレンジ水、日ノ出煉、
椿、香油ヲ使用アレ必ズ美人トナルベシ、美ハ愉快ヲ覺
エ、精神ヲ爽快トス美ハ實ニ自他共ニ一生ノ幸福ナリ

定價表

美顔料日ノ出クリーム
特二圓、一圓、五十錢、廿五錢
白色劑オレンジ化粧水
大一圓、中三十錢、小十五錢
日ノ出煉香油クリーム
八十五錢、二十五錢
日ノ出煉香油純粹棒製
特大一圓、五十錢、二十錢、十錢
此際發賣紀念として直
接御注文一千名を限り
美顔パウダー粉白粉一
個を添呈す

料無上以個二錢八料送

本舖 東京 須原日ノ出園

東京日本橋區馬喰町三丁目十五番地

發賣元 酒井豐吉商店

特約店 大阪南久太郎町高野永盛堂
東京白牡丹各店其他信用あ
る化粧品販賣店にあり

色白クナルオレンジ水

造花原料

造花用鑷類、造花用打拔器械、造花用染料

造花半製品、造花盛籠類、標本的造花

摘細工材料、刺繍材料、袋物器具

摺細工材料、果實木型

東京市本郷區元町三丁目字六番地

水道橋電車通り

桑原商店

振替口座三三二九九番

油香椿煉出ノ日

高貴御料 德川公爵奧樣 細川侯爵奧樣

衛生的なる改良かもじ發賣 (新案特許一〇三六二號)

丸類 島田 銀杏 其外



本品の特長

- 一、根元に **コロップ** を装置せるにより舊式のものより軟らか
- 二、皮膚を摩擦する事少き故 **禿頭** の憂なし
- 三、頭痛癢ある婦人にも用ひて爽快を覚えしむ
- 四、二百度の熱蒸氣にて **消毒** しあれば毛髪傳染病を媒介する憂なし

●諸かもじ製造販賣 (東京市神田區豊島町十七番地 振替貯金口座一八二八八番)

田中金三郎

◎小賣特約店

廣京 大西白牡丹 三井屋 日本橋 柳屋 須田町 通二丁目 外到る處の小間物店化粧品店にあり

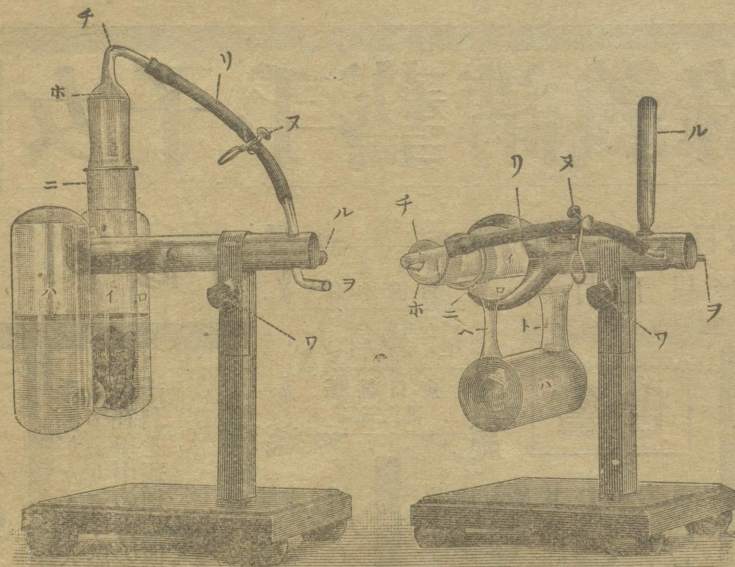
- 島田齧 三十錢より 壹圓五十錢迄
- 銀杏齧 二十錢より 六十錢迄
- 丸齧 十五錢より 七十五錢迄
- 送料各八錢
- 其他詳細は御一報次第進呈可仕候

子女のしたみな(家庭自修用復習用)

岡田起作先生編書	女子文の手ならい	全一冊	定價 參拾五錢
平野のち先生著	女子のさかひぶり	全一冊	定價 四拾八錢
岡田起作先生書	女子烏丸帖	全二冊	定價 參拾八錢
岡田起作先生書	女子書翰文	全二冊	定價 五拾參錢
岡田起作先生書	大井川帖	全一冊	定價 拾六錢
岡田起作先生書	古今和歌集序	全一冊	定價 貳拾錢
中郵秋香先生修	女文早まなび	全二冊	定價 八錢
増戸鶴吉先生著	假名遺自修便	全一冊	定價 貳拾錢

東京小川町 大野書店 東京下町 櫻木 晚成處

器生發斯瓦式スエーヂ



本器ハ輕便ニ水素、硫化水素、炭酸瓦斯等ヲ發生セシムル一裝置ニシテ鑛壁平等ナレバ、キツプ裝置ノ如ク化學熱ノ爲ニ破損スル患ナク又壓力式ニアラザレバ瓦斯漏洩ノ危険ナシ

左圖ノ如クスレバ瓦斯ヲ發生シ右圖ノ如ク把手ヲ廻セバ瓦斯ノ發生ヲ停止ス

本標學物博械器學化理

年八治明業創

所 作 製 津 嶋

南條二町屋木市都京 店本
地番八十目丁壹町錦區田神市京東 所張出

齊驗試御所藥製局醫侍省内宮
油香 等優



椿油製
高等香油新つけき
定價 大壺 金廿五錢
小壺 金拾五錢



同上特製
優等香油 志らきく
定價 壹壺 金七拾五錢



白椿油製
精製香油 志ら井油
定價 大壺 金四拾錢
小壺 金廿五錢

紳士貴婦人好評品

東宮妃殿下御用品

東京京橋桶町
本舖 白井椿堂

販賣所は有名なる化粧品小間物店にあり

本香油は品質佳良にして毛髮の營養分に富み衛生に適し毛髮の攝養に叶ひ其の芳香は最も優美高尚なれば現時香油中に於て卓絶せる優等香油あり

會員募集

女子手藝講義錄

第一卷年修了

第二號五號日發行
每月五號日發行

東京日本橋
大倉書店
振替口座
三八八番

入會の期定は至極手輕であります

手藝が女子に大切なるは今更申す迄もない事では是を教へる學校も數多あります然し家庭の都合其の他の故障で通學の便のない方並に在學中の方の参考用として共立女子職業學校の科目に依り左の十科を親切に傳習し

一般の家庭に普及させたいのが
本講義録發行の目的であります講師は何れも専門の方が多年の實験から組織的に説明されるのですから如何な初學者素人方にも容易く了解されると信じます就ては此際速に會員となり本講義の實益を試み給はれ

警告

優待會員の製作品は審査の上賞品を呈す

共立女子職業學校櫻友會内 女子手藝普及會編
裁縫科和洋各種 ● 編物科各種 ● 組絲科各種 ● 刺繡科各種 ● 袋物科各種 ● 造花科花卉 ● 果實 ● 刺烹科和洋 ● 細工物科糊細工 ● 綿細工 ● 瓶細工 ● 押繪接物細工 ● 手藝用圖畫科 ● 手藝教授法 ● 其他課外講義數種

入會規定及内容見本進呈す
貴婦人令嬢方は一日一刻も早く會員ごあり速に本講義録を手になせられよ

輕便しみ拔油

世の令嬢令夫人に薦む
(理想的しみ拔油の發賣)

半ポンド瓶入
一瓶定價
十五錢

揮發性無色透明の油にして、和洋服及半襟、根掛類の汚抜き、又は油抜に應用し、效用甚多く、直ちに乾きて臭氣を止めず、地質を害せず、しみ拔油中最優等品にして、家庭の常備品となすべきは勿論、汗、汚多き夏季に於ては特に一瓶の用意なかるべからず。各種女學校並に文明的家庭にては盛に之を使用せらる。



東京瓦斯株式社會

又役員半数改選の結果左の諸氏當選何れも承諾就任せられたり

佐方 鎮君 安井 哲君 宮川壽美君 下田たづ君
喜多見さき君 後閑菊野君 保井この君 甫守ふみ君
今澤ふみの君 黒田チカ君

本日は酷暑の候にも拘らず隅田川より吹き送くる涼風衣袂を翻して來會者をして暑熱の苦を忘れしめしかば互に舊を語り新を話して親睦の状うるはしく客員諸先生の周圍に集ひては感恩の情更に新らしきを加ふるに似たりき又餘興薩摩琵琶はさすがに名手の技あらはれて那須の與市をかたりては天徳寺ならねども人をして武士道の義に感涙を催さしめ濁湯江を謠ひてはすゝろに哀愁の情に堪へざらしむる等歡を盡して晝の移るを覺えず夕食亦價の廉なるに似ず卓上の裝飾品位卑しからず味亦佳なりしはさすがに此の

俱樂部の他に勝れたる所なりき斯くて人々飽かぬ名残ををしみつゝ袂をわかれたるが猶興やつきざりけん三々五々打連れて或は對岸のイルミネーションを賞し或は吾妻橋方面に向ふ等心にたちわかれたるは實に愉快にして有益なる會合なりき

●役員會并に決議要項

主事會

明治四十二年七月九日(金曜日)午後五時三十分より主事會を開く出席者甫守ふみ、岡田みつ、吉村千鶴、土取信、下田たづ、斯波安、佐方鎮、宮川壽美、の八君なり

協議事項

一、總會に關する事

順序

八月一日午後一時開會

會務の報告

議事 議題 本會事務所改築の件

役員改選

餘興 薩摩琵琶

食事 午後五時

散會 午後六時三十分

二、七月三十日午後五時三十分より臨時主事會を開き總會に就きて協議する事

三、廣告取次人品田與松へ中元の心附を遣はす事

但し金額貳圓とす

四、本月は議題無きを以て評議員會を開かざる事

明治四十二年七月三十日(金曜日)午後五時三十分より主事會を開く出席者は甫守ふみ、宮川壽美、岡田みつ、下田たづ、斯波やす、佐方しづ土取信の七君なり

協議の事項

一、總會當日の獻立に就て

二、議題に就て

三、投票に就て

明治四十二年九月十四日(火曜日)午後六時開會
出席者下田たづ、土取信、甫守ふみ、堺さき、岡田光、吉田千鶴、佐方鎮の七君なり

協議の事項

一役員分擔の件

會計 下田たづ、甫守ふみ、土取信

庶務 吉村千鶴、宮川壽美、佐方鎮

編輯 岡田みつ、斯波やす、常光泰、堺さき

二建築寄附金督促之件

但し未だ申込まざる人を第一に督促し已に申込みて未納の人は第二とする事

三明年の總會より各地方總代の出席を促す件

但し命令には有らずして誘引する事

四岡田光君時間の都合上評議員の辭任申出てられたる處已むを得ざる事情なりと認めたるを以て之を許可し次點者小谷野千代君に依囑したれども此又公私多忙の故を以て斷りあり依て次點半田のち君に評議員當選の旨を通知したり

明治四十二年十月四日(月曜日)午後五時開會出席者常光葵、甫守ふみ、堺さき、岡田みつ、土取信、斯波やす、佐方鎮、宮川すみ、の八君なり

協議の事項
一 死亡會員參典を例年の通り執行する事
一 會場本會事務所
一期日十月廿四日(第四日曜日)
一 時刻午後一時開會同二時祭典執行同四時閉會

一 會費金十五錢

一 執行順序 祭文朗讀 各會員禮拜 供物分賦

一 會員名簿に死亡會員の名を登載する事
一 評議員小谷野千代半田のち兩氏順次辭任せられたるを以て次點者小西はつ氏に通知すること
一本月は評議員會を開かざる事
評議員會

明治四十二年九月九日(木曜日)午后四時開會出席者今澤ふみの、穗積銀、甫守ふみ、吉村千鶴安井哲、牧野清、後閑菊野、佐方鎮、下田たづ斯波安の十君なり

評議の事項
一、主事半數改選
當選者 下田たづ、斯波安、宮川壽美、吉村千鶴、土取信、堺さきの六君なり
一、評議員波佐谷みち、中島敏の兩君辭任に付

次點者黒田ちか、堀口きみの兩君へ當選の通知を發する事

一、評議員會各月の議長を定むる事左の如し
九月 佐方 十月 穗積 十一月 吉村 十二月 井口 四十三年一月 喜多見 二月 岡田 三月 安井 四月 斯波 五月 矢作 六月 下田等なり

●櫻蔭會第六年度決算報告

(自明治四十一年七月至全四十二年六月)

總收入	高	三四五七、七五一
內譯		
會費		二七一、四〇〇
利子		八八、一二四
雜收入		五八、五三〇
廣告料		九五、六〇〇
臨時收入	水道賣拂代	五、六二〇
前年度越高		四九八、四七七

總支出 高 一、四九五、六五九

內譯		
會議費		五〇、一五〇
集會費		一〇五、六三五
書記給料		二〇四、〇〇〇
寄稿料		二六、三〇〇
車及ビ使賃		二二、〇三〇
郵便費		一九七、四六五
通知用		二八、三七〇
內發送用		一三〇、七一〇
雜用		三八、三八五
器具費		二〇、三六〇
筆紙墨		一七、七四八
炭茶費		二七、二六〇
贈與費		三七、九五五
印刷費		八、八五〇
會報		四三四、一二二
市内集金料		四三、六二四

雜費	四八、〇七〇	建築寄附金	元町二ノ六六番地事務所購入及移轉に關する費用報告	二二七二、〇九〇
地代	一一二、二〇〇	元町二丁目事務所購入及移轉に關する費用總額	元町二丁目事務所購入及移轉に關する費用總額	二二七二、〇九〇
臨時費	一〇七、〇一〇	内譯	家屋雜作疊建具一式並に火災料の一部家屋稅の一部若溪會に支拂	一八一四、一二〇
修繕費	一二、八八〇	雜費	移轉費	六、二八五
貸費	二〇、〇〇〇	修繕費	新設備費	一六九、一二〇
翌年度へ繰越高	一、九六二、〇九二	登記印紙料其他登記に關する費用	登記印紙料其他登記に關する費用	七三、六八五
内譯		翌年度へ繰越高	内譯	六三、六六〇
現金	一四九、一一七	銀行定期預金	銀行定期預金	一、〇〇〇、〇〇〇
銀行定期預金	一〇〇〇、〇〇〇	銀行當座預金	銀行當座預金	四四一、六二〇
銀行當座預金	七一六、六〇〇	現金	現金	一七、四〇〇
振替貯金	七六、三七五			
全上保證金	二〇、〇〇〇			
財産總高 (明治四十二年七月現在)	三二一一二、〇九二			
前年度越高	一九六二、〇九二			
整理公債證書	八五〇、〇〇〇			
國庫債券	三〇〇、〇〇〇			

右出金者 五百二十一名
 内皆納者 百九十名
 申込なき會員 七百十二名

●第七回會計豫算

(自明治四十二年七月至明治四十三年六月)

總收入高	四八〇九、九九二
内譯	
前年度繰越高	一九四二、〇九二
整理公債利子	四二、五〇〇
國庫債券利子	一五、〇〇〇
銀行定期預金利子	六〇、〇〇〇
雜收入	三〇、〇〇〇
廣告料	一二〇、〇〇〇
會費	二、六〇〇、四〇〇
内	
舊會員會費	二、五四八、八〇〇
會員總數千二百三十三名此内會費完納者	

百七十一名を除き千六十二名會費徵收し得らるべき分
 新入會員會費 五一、六〇〇
 明治四十三年入會員八十六名と見積り一名に付二ヶ月分金六十錢徵收し得べき見込

總支出高	二、三三七、七二〇
内譯	
會議費	一〇六、五〇〇
主事會評議員會十二回宛臨時主事會臨時評議員會五回宛委員會十二回 (委員十名の見込) 此の延人員主事百七十一人一賄金廿五錢評議員三百四十人一賄金十錢委員百廿一人一賄金廿五錢の見込	
集會費	二六〇、〇〇〇
内	
總會の節	五二、〇〇〇

主事十人賄料金十五圓雇人料金七圓餘興費金十圓席料二十圓の見込	一〇、〇〇〇	車代及び使料	三〇、〇〇〇
死亡會員祭典		郵便費	二二五、〇〇〇
供物代金三圓雇人料二圓主事十人賄料金五圓の見込	五二、〇〇〇	内	
新年會		會報送料	一三五、〇〇〇
主事十人賄料金十五圓雇人料金七圓餘興費金十圓席料二十圓の見込	四七、〇〇〇	集會通知端書	四〇、〇〇〇
入會懇親會		雜用	四〇、〇〇〇
主事十人賄料金十圓雇人料金七圓餘興費金十圓席料二十圓の見込	九九、〇〇〇	編輯用	一〇、〇〇〇
送迎會		借地料	一一二、二〇〇
三回被送迎者一回に付二人の見込此賄料一回に付金三圓主事十人賄料一回に付金十五圓雇人料一回に付金五圓席料一回に付金十圓の見込	二〇四、〇〇〇	諸税金	二四、〇二〇
書記給料		府稅家屋稅金四圓十八錢市稅家屋稅附加金五圓八十四錢區費家屋割金八圓十六錢所得稅金八十四錢水稅五圓	一九、〇〇〇
		家屋保險料	四〇、〇〇〇
		修繕費	二〇、〇〇〇
		臨時雇人費	三〇、〇〇〇
		器具費	二〇、〇〇〇
		筆紙墨費	二〇、〇〇〇

●會費完納の諸君

●第六回庶務報告

(自明治四十一年七月至全四十二年六月)

一、客員會員移動

内	新入會員	百五十四名
	退會者	三名
	死亡者	十五名
二、客員會員	千二百九十一名	
内		
在京員	三百六十九名	客員五十名 會員三百十九名
地方員	九百名	客員七名 會員八百九十三名
在外國會員	二十二名	

炭茶瓦斯費	六〇、〇〇〇
吉凶及慰勞贈與費	四〇、〇〇〇
役員客員吉凶の節慶吊及び役員慰勞贈與費	一〇、〇〇〇
圓書費	二〇、〇〇〇
印刷費	六七二、〇〇〇
會報印刷費	
四回分通じて五千六百部一部金十二錢宛の見込	
寄稿料	五〇、〇〇〇
速記料	一五、〇〇〇
市内集金料	六〇、〇〇〇
學資貸與金	一二〇、〇〇〇
雜費	五〇、〇〇〇
豫備費	一五〇、〇〇〇
翌年度繰越高	二、四七二、二七二

三、客員總數 五十七名男四十七名 女十名

新推薦者 西岡嘉藏、須摩さだ兩先生

四、役員會 十九回

内

主事會 十回

臨事主事會 二回

評議委員會 七回

五、會報印刷總數 四千九百九十冊

内

納本贈呈交換 七十二冊

會員客員へ配付 四千七百六十七冊

六、書籍總數 百九十七部 七百十冊

七、器具總數 九十三種 五百五十七點

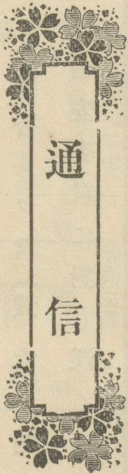
○人の眼あればこそ我々は亡びつゝあるな
れ若しも我々盲目ならんには美しき家も
要せず麗しき家具をも要せざるべし。

(フランクリン)

○必要もなくして一疋の虫すら踏んで往く
如き人は、我が友人の名簿に記入せざる
べし。

(クワバア)

客員會員の動靜



通信

十四

●奈良女子高等師範學校より

越智キヨ

秋冷の候に御座候處皆々様御機嫌よく邦家のため御盡瘁の御事と目出度奉存候、東京出立の際主事の御方々より時々通信せよとの御言葉今尙、耳底に刻まれ居候處、更に編輯係の御方々より兩三度の御催促相受候へば是非に御通信申上べき筈の所今日まで遷延致候處、誠に恐縮の至に存上たてまつり候、何卒皆様の宏き御心もて御海容下され度願上候。當校は奈良市の北隅約二万一千九百餘坪の平野を占め東方遙に若草山を望み大佛前と相對し、其の淡綠色なるジャコビアンスタイルの宏大なる建築物は、優に奈良市に一美觀を添へたるものと愚考、致され候、建築費設備費合せて本校のみにて三十万二千七百六十九圓にて四十五年度までに完成の豫定に御座候とか聞及申候、現今は本館（二階建にして階上は講堂、階下は校長室、幹事室、會議室、兼食堂、教務室、會計室、應接室、宿直室等）を中心として前方に當りて左右兩翼は二階建相對し後方に當りて左右兩翼に平家建二棟相對し、三階の書庫と別に小使部屋の一棟（炊事場に假用）の數棟落成致居候、此内二階建一棟を寮舎に假用致新寮舎に用ひらるべき疊を敷き幕を引きて押入に代用致居候

湯殿は假小屋に風呂桶四つを并へたるなど、何れも一種の異觀なきに候はねど、これ等皆長き思ひ出の種子と相成候事と存せられ候。新寮舎は來る十二月末日までに現今の生徒七十八名を納るゝに足るべきもの落成の筈に御座候、十名内外を以て一家族となし一家族毎に玄關、居室（自習室兼寢室）三室、食堂兼應接所一室、臺所、浴室、洗面室兼理髮室等を備へ自治自營の生活をなさしむる筈に御座候、尙來年度に至りては特別教室の建築を見る事と存候即體操教室及之に附屬の整容室、音樂教室及音樂練習室、家事講義室及其の實習室、和洋作法室、圖書室、手工室等の過半の建築を見ること、存候既に其の設計も大体定められ居候、是等何れも十分の研究を積みて作られたるものに御座候へば經費さへ許し候はゞ大概設計通に出來候事と相成可申、之等の完成を告げし曉には如何あらんなど頼母しき感なき能はず候、諺にも御腹を痛めし兒は愛深しとか、申す如く何事も身心を勞して始めて形に現はるゝものは愛深く、且責任重き丈夫丈精神的の興味を感ずるものに御座候。

野尻校長は學徳共に高く、明晰なる頭腦と精密なる考慮と多大の熱心とを以て校務を採り宏大なる度量とあふる、が如き溫愛とおかすべからざる威嚴を以て職員及び生徒を導かれ候へは何れも其の徳に感し學校のため各自の責任を盡さんとの念一分だも離れず候之等は教官一同位置の上下なく男女の區別なく會議席上に於て甲論乙駁しかも一點の間意なく只學校のため教育のため各自

十五

の意見をのべ居らるゝを見て常に私の感ずる所に御座候、また生徒は最も簡單なる規則のもとに各自の責任を盡して一點の缺くる點なきを以て其の證を可致候、教官は皆協同よく和し一致よく解し獨り學識を生徒に與ふるを以て足れりとせず訓育上に於ても全教官力を一にして其の責に當られん事を望むとは野尻校長の會議席上第一に申渡され候御言葉に御座候而してよく其の實行を見候事と存候、前述の如く教官は各自特有の學科擔當の外に修身の教授をも命せられ交互講話致候、校長は御自身講話の時と否とを問はず列席致さるゝは勿論各教官も列席聽講致居候へは講話されたる事項は全教官其精神を酌むのみならず之に向つて生徒を指導致居候寮舎に於ては有名な錦織生徒監のおはしまし候て朝に夕に親しく生徒の訓育上の講話は申すまでもなく其の範を示され候へば生徒の幸福此上も御座なく候、各學科は生徒をして可成各自に研究せしめ教官は其の指導を與へ或はそれを統一する方針にて主として生徒の實力養成に務むる方法を採られ居り候當校現教官は教授十二名、助教四名、講師一名に御座候、何れも獨特の研究を發表致され居候へは私も一週八時間許最も關係深き學科の參觀をいたし多大の利益を得候、私は一週八時錦織教授の補助として裁縫科を擔任いたし一方に於て寮務の勤務を命せられ居候、是丈にてほとんど毎日早朝出校日暮家に歸る有様にていつも日の短きを感じ居候、歸宅後は來年度より擔任すへき家事科につき研究致居候、家事科は誠に困難なる學科にして私の如き學識なく經驗乏しく常識淺きもの

ゝ之が教師たらん事誠に恐懼の至に御座候へは、生徒と共に研究いたすの覺悟にて其の研究方法につきて私の考へたる如く實行致すことを得ば或は豫想以外の好成绩を得られんなど豫想いたし候、しかし只今の規則にては實行は困難かと存候へ共もし幸に其の實行を見、皆様に發表するの機を得はいか許嬉しからんと存上候。其學科を分ちて豫科(四ヶ月)及本科(三年八ヶ月)とし豫科に於ては主として既習の智識徳操体力を整頓し且本科に入るの準備を致さすことに相成候、されば或學科によりては其力の少き學科の時間を多くし、力の多き學科の時間を少くする等のことを致居候假令は高女出身者には漢文の時間を増し、師範出身者には英語の時間を増加致す等に御座候、本科は分ちて國語漢文部、地理歴史部數物化學部及博物家事部の四科に御座候、現今の生徒數は國語漢文部二十四名、地理歴史部十五名、數物化學部十九名、博物家事部二十名、合計七十八名に御座候、尙前各頂の學科目の外各部を通して各生徒の所長に従ひ選修科目を修めしめ居候、其の科目及現今生徒の組分次の通りに御座候。

圖書科八名、音樂科八名、裁縫科十九名、園藝科四十三名に御座候、之等藝術の科目は各自の所長に於ひて選ましめ居り候へは其の成績見るべきものあるならんと存せられ候、外國の子女を相手と致居居候以來直接に生徒を有せざりし私は此の四月以來最も温順にして最も眞面目なる最も愛らしき最も研究心に富める生徒等に接する事を得候事は非常にたのしく感謝致居候

以上の外尙申上たき事數多御座候へ共余りくゞしく候へは此度は之にて筆を擱かんと存候終りに望みて皆様の御健康と御幸福とを祈上奉り候、かしこ

十月十九日夜記す

當校は、さきには檀原神宮、及神武天皇御陵參拜を終り今亦來る二十一日より二泊の豫定にて校長始め教官并に生徒一同、伊勢神宮參拜を目的とし傍ら其の附近の歴史的の古跡并に實業的の方面の視察をも致すに定まり居候、之等參拜の目的は全く國民的精神愛國的精神を第一に養成するに有之候神宮の參拜を終りたる後は夫々専門學部研究の爲め旅行をも行はるゝ事と相成可申と存候

●福井より

稻葉 てつ

御はかき拜見いたし候姉君様等には益御榮え遊され候ことかけなから御嬉しう存上奉候私に消息申越との御仰さてこれと申す様な功話しも候はず昨春赴任以來先輩の方々の御かけ様にてどうやらこうやら修身國語地理教育を受け賣りして教師の末座に備はり候ものゝやくざものゝこと腰辨たけは忘れ申さずたゞ若き光りに充ちたる愛らしき娘御等の心の底に何もものは根ざされなばとそれのみ樂しみに時の經つを忘れり候困る時は多々候へども在校中居眠をして御講義をきゝ落しいざ教授と云ふ間際になつて先輩に泣きつき辭書をあさりても合點參らず窮した末に常は御無沙汰の隊長が顔を拭つて本校の先生に御なさを仰いて叱られることゝ舎監として余りに若く時々父兄が舎監とやらは何處に在し候ぞと問れてマゴツクことなどは始終にて候實力の足らざるこ

とは毎日吐く青い息にて御推察願上候當地の特色としては羽二重工場の行列と秋より春にかけての雪霜冬になれば足下に氣をとられ候せへか生徒の姿勢は前屈が多く候たゞ不思議なるは此濕つばき處が却つて健康地とやらにて大概の病人は癒る由何卒皆様精々御來任下され度御下宿の周旋ステーションの御出迎ひ等嬉んでいたすべく候承り候へば本年の夏期講習會には文科の同級生は一人も出席いたさゞりし由何となく田舎廻りの落魄か思いやられ候へども天高く氣清き處詩人生活はとかく田園のことゝ存候時下折角皆様御自愛專一に祈上候

十月六日

●八王子より

寺島 とく

急にお寒くなりましたが皆さんねかはり御座いませんか私の近狀云々この仰せ別に申上る程の事も御座いせんがごもかく學校の模様を一寸申上ます當府立第四高等女學校は昨年四月の開校で當町を去る一里餘りの横川といふ村に住んで住られる横川様といふ方の熱心がもとゝなつて出來たもので御座います教員數は校長より書記迄合せて十六名生徒はわづか四十三名あまり少いでさみしく御座いますが訓練はよく行届くので生徒のためには幸福とれもひます當校には家庭的の寄宿舎が御座いますこれは昨年九月よりひらかれたので初めは舎監一名生徒四五名さみしくもあり經濟の點にも随分困難いたしました然し形式的のなかれ主義の舎よりも却つて面白く學校からかへると皆集つてお茶をのみお菓子をいただくといふ風でまるでほんとの一家の様で御座い

ます本年の四月からは生徒もまして十三名となりました私は教務の方をいたす事になりましたので舍の方は同窓の齋藤能婦子姉にゆづりました當校は新設の事とていろ／＼の會合がほとんど毎月あつてなか／＼多忙で御座いますますがまじめなる職員が多いので大概の事はちやく／＼とはこんでまゐりますのは學校のために誠に結構とぞんじてゐます其會とは國語研究會、地歴…家事…音樂…理科…運動…書畫…終り

十月八日

●芝より

大塚 とき

數ならぬ身の近狀をこの御仰をまことに恐縮に存候當校に参りて約六年短き月日には候はねど別段かち得たる事もなく平凡中の平凡なる生活を繼續いたし居候次第御耻しく存候幸に身体健に候へは年中殆ど無缺勤にて只管校務に従事いたし居候其代りこれと申嗜好もなく従つて趣味に乏しく只平素の作業か唯一の樂にこれあり候目下我校には櫻蔭會員七人いづれも質實なる方々にて一意眞面目につとめられ候へは自然愉快に過し居候まづは御返事迄かして

十月十日

●石川より

駒井 依

近況を報せよとの御はかき有かたく拜見いたし候まつ／＼會員皆様にはますます御機嫌よく入らせられ誠に／＼御めて度幾重にも御祝申上げ候次に私事去る三十年に諸先生方の御手許をはなれてこゝに十有余年鳥取京都と經て只今當地高等女學校に教鞭をとり居り候卒業いたし候てより數

多年月を經候事故に頭腦も古るく相成り何かとおくれ勝ちに候へ共幸ひに皆様の御引立により今日事なく過し居り候御存じの通り此間皇太子殿下北陸行啓の御事あり數ならぬいやしき身にてひとり拜謁の光榮を荷ひ候事一家一門の名譽と忝く存居り候家庭には五才四才の、兒二人と當年六月に誕生いたし候男兒有之多忙の内にもそれ等の無邪氣なる言動に樂く今日を過し居り候先は右申上度日一日に秋冷相増し申すべく皆様御大切に祈上候かして

十月九日

●京都より

大塚 美 禾

秋冷候愈々御機嫌よくあらせられ候御事めて度存し上候扱私事母校をいて、當校に奉職以來十一年相變らす壯健に勤務いたし候事全く母校諸先生方の御惠と有難く感謝し參らせ候しかし家には多數の小供もあり内外多事にとりまされ候ため度々御伺ひも仕らす御申譯御座なく候當校には賀來常子、土岐安子、寺町きぬ子、野々村やそ子、富井みね子、菅原三枝子、渡邊すみ子、長井ふじ子、渡邊とし子の諸氏と都合十名の櫻蔭會員これありそれ／＼愉快にはたらきをり候まづ御安心遊され度候御端書に接し細々と一同の近況申上度存し候へとも目下當校卒業生の同窓會にて計畫せる事業これあり日々その方に餘力をそゝき候ためとりあへず一筆御返事のみにて御免蒙り度候時分から役員諸姉折角御自愛遊され度祈上候かして

十月九日

●麴町より

秦 利 舞 子

會員皆様には御變りもおはしませ候や私事日頃より申譯なき御無沙汰にのみ打過居候ことに
 本年は二月より七月半までとかく病床にのみ親しみ居候ひしためいとゞ御疎遠に相成誠に残念に
 存候しかし此程は大に健康回復いたし候まゝ恐れながら御安心たまはり度候在京の方にはすでに
 御承知の事と存候が本年の春米國よりミシン刺繡の泰斗ウエスタマン嬢を聘して其獨特の妙技を
 つたへ私も病中を押して日夜練習いたし八月に至りて全く業を終へ候其後自ら教鞭を執りかたは
 ら勉強いたしをり候遠からず日本に於けるミシン刺繡の泰斗とならん事を期し居り候(呵々)御暇
 あらせられ候節は是非御來院被下度まち上候 かしこ 十月十一日

●甲州より

内 藤 知 宇

御葉書有りがたく拜見いたしました皆様には益御機嫌よく入らせらるゝ御様子何より御目出度
 う御座います私事昨冬當地に参りましてからは以前と全くかはつた家庭の人となりました家族
 は七十五才の老母在京研學中の長男中學二人小學女二人婢僕併せて十一人でありませ老母が珍し
 い程まめやかの人で何かとよく世話をしてくれませ故不馴れの私も障りなく暮して居ります種々
 申し上げたい事もあります但此度は之れで失禮致します末ながら皆様様の健康と御幸福とを祈り
 ます 十月十一日

●麴町より

三 輪 田 秀 子

おはがきたまはり、有難く存じ上げ候、今まで、ながき間、學校生活をなし、生徒となり、教師
 となり、多人數と共に、生活し來り候ひしが、去四月よりは、うつてかはりて、純粹の家庭生活
 の身と相成り申候。これも人生の順路に候はんか、學生生活、教員生活、家庭生活と、種々の境
 遇を経ることは、一は、我身の經驗となり、一は、將來教育上に、大に、參考と相成ること、存
 じ候。學生生活を脱して先生となりし時は、急に大人に相成り候やうに、たもはれ候ひしも、先
 生としてよりは、親としての方が、又、一層、大人になりたるやうに思はれ申候。私は、朝夕、
 子等の世話のみを、いたし居り候、去三月、生れたる兒、これあり候が、初めてのことにあり、
 且、在學中、育兒のことなど學ぶ折には、あまり心にもとめず、聞きすおし候故、今日となりて、
 萬事つきあたるばかり、又、随分、世話のやけるものに候へども、一方に於ては、望み多く、樂
 しみなるものにて、日々に太りゆき、育ちゆくを見ては、不知不識の間に、時たち、親になつて
 初めて、其たのしさを、知ることが出来るやうに相成り申候。近頃は、丁度、果物の實り時に候
 へば、毎朝早くより、子等に誘はれ、無花果や、柿、栗の熟したるを、あさりあるくも、亦、無
 限に樂しきものにこれあり候。

今日は三ツ、あすは五ツと栗の實を。

拾ひてさゝぐ、母君の手に

朝な朝な、子等にほだされ、無花果の、

實をとるからす、追ふぞをかしき

庭前の柘榴を見て、

柘榴の、わらふに似たる、實をみれば

われもたのしき、おもひこそすれ

家庭生活は、學校生活に比すれば、單調には候へども、快樂は又、無限なるものにて、無邪氣なる子等を、相手に、打興じ居り候へば、エデンの樂園も、かくやと忍ばれて、うれしく、且、樂しきものに御座候。かしこ。 十月十四日

● 静岡より

池 側 忍 い

仰に従ひ近況のあらましを申述候私事當静岡女子師範に轉任後もはや一年余と相成候へとも今にこれぞと申上べきほどの事も得致さで漸く校内の勝手を一通り心得しばかりに御座候當校舎は粗末ながら位置はまづ宜しき方とて市の北方賤機山の麓に之あり昨今寄宿舎の一棟増築中とて日々其工事の進行するを眺めつゝ樂しく勤め居候又當市櫻蔭會部會とも申べき小蔭會は新年春秋の例會は素より臨時の集會も屢々之ありいつも愉快に心やすく語らひ申候追々修學旅行も好き季節と

相成候へばいづれ母校よりも遠からず當地方に御出かけ遊されんと存居候かしこ 十月十四日

● 佐賀より

鍋 島 や す

秋あゝ秋とは昔よりいく度くりかへされ候ひしならん百度聞き千度いひてもなほ此頃の秋けしきに對し候へばまたあゝ秋と叫ばれ申候この清爽なる氣崇高なる秋天の美に對し候ては誰も皆默然としては過され申さず候此時に當り皆々様にはますゝ斯道の爲御奮勵の御事ならんと推し上候扱私に近況もらせよこの仰せに候へども別に變り候ことはこれなかつた、本學年よりは受持學科國語八時間作法八時間別に修身一時間にて去年の廿五時間に比較いたし候へば誠に氣樂にて樂しみて下調の出來る様に相成候事何よりうれしく存居候當校の藤谷城戸木下兒玉榎野の諸姉にも孜孜として勤務せられ居候先づは御返しまで 十月十五日

● 島根より

薩 睡 和 榮

御文有り難く拜見仕候秋天高く氣清き候益々御清勝賀し上候扱私事近況申上べき由例によりて例の如く神なからの出雲の國にただ事なしに過し居候さりながら山紫水明の出雲の秋は山に海に野に川に遊ぶべき處いと多く候親むべき燈の下疎になりがちに御座候交通不便の地とて新刊の書等は手にいることもなかゝにて當時愛讀いたし居候は紅蘭詩集と古今學變位それさへ手にふるゝは稀にて作文の添削と寄宿舎の整理とにたゞ日を過し居候先は御答のみ 十月十三日

●大阪より

宇田 くに

其後は非常なる御無音に打ちすぎ何とも御申わけの申上げ様もこれなく候に却りてこの程は御丁寧なる御たつねにあづかりまことしく恐縮の至りに御座候萬におもひ出て多き若溪の學びやあごにし候てより二年有半秋を迎ふること三度に及び候。年毎に送り迎ふる生徒の数の多くなりまさるにつけても責任重き事のたもはれて職務大事と務め居り候まゝ御安神なし下されたく候大阪とし申せはいづこもく煤烟におほはれたる處のみの様にきこえ申し候へども當校は城南桃山の里に俗氣を遠く離れ居り候て空は高く氣は清く朝に夕に吹く風また心地よく御座候受持は博物と作法とにて十五時間其外に舎監の事務これあり候へとも目かまはるといふ程にてはこれなく候定めの授業愉快に終へ候後は職員生徒打よりのテニスマツチ時にはラツケット右手にまた左手に思はぬ喝采を得申し候袴のもゝだちとりて鍬とりて百姓もいたせば木缺とりて植木屋もいたし候かくてまぢかねし夕食時に膳にのぼるあまきものは皆これ生徒手製のもの岡野風月の甘味にまさること萬々に御座候食後はピアノオルガンの獨奏合奏あるは唱歌など同勤の方々との小音樂會たのしき事の限りに候時には校庭に今やさしく咲きそろへるコスモスの花めで、あやしけなる歌といふものよみいで、人をわらひこけさすることも御座候。當校の櫻蔭會員は澤ノ井(技舎監)横田(國体舎監)石田(地歴)岡村(文)の四氏と私と五人に御座候中澤ノ井石田の兩氏を除きての三人は

校内すまひ横田氏は寄宿舍北寮のある一室に岡村氏と私とは棟を異にせる清楚なる十二疊の一室に起居いたし居り候この室に掲げられたる那智の瀧靜八丁の額面はいつもく岡村氏の話のたねとなり申候(岡村氏はこの九月より當校にこられしなり)。なほ當校には女子の職員と男職員の夫入方との親睦會これあり月一回の集合ありて御料理のけいこをいたす事もあり候袴の上に白き前掛しめて奥様方の中に立ちまじり大村校長令夫人(櫻蔭會員)指導のもとに肉をひくやら卵を破るやらな小さき手帳とりだして控へるやら大さわぎ御蔭様にて玉ねぎのきりやうパンのやき方オムレツの焼様までよくおほぬまことにうれしく今度の休みにはあれもして父にまゐらせむこれもして兄にすゝめむとたのしみ居り候まだく申上げ度ことは山々これあり候へども先は右まで早々

十月十八日

心なき磐城の山のいつのまに時雨かけてか紅葉しぬらん

親 長

故郷の人の面影月に見て露分けあかすまのの萱原

宗 尊 親 王

白河の關屋の月のもる影は人の心をさむるふりけり

西 行 法師

東京女子高等師範學校彙報

職員異動

依頼免本官

全 上

任助教諭

免本官專任東京女子高等師範學校教授
兼第六臨時教員養成所教授

修學旅行

十月中文科三年生は下村佐方兩先生に技藝科三年生は荒木喜多見中田の三先生に地理歴史專修科生は佐藤今村兩先生に引率せられ學術實地研究の爲何れも日光に旅行し理科三年生は脇水、下田、竹島の三先生指導のもとに江の島を経て箱根地方へ修學旅行をなしたり

郊遊會及運動會

十月九日本校職員及生徒は午前六時兩國發汽車にて群馬縣新田郡太田町に秋季郊遊會を催し同日午後八時頃歸校せり

附屬小學校兒童は同十八日に隣校運動場に於て幼稚園幼兒は二十日幼稚園前廣場にて運動會を催したり

附屬高等女學校生徒も同しく近日上州太田に遠足を催す豫定なり

本校入學試験

本入學試験は毎年一月に行はるゝ例なりしをその期を繰り上げられ本年は十一月廿四日に始まり二十七日に終る事となりその結果は來年一月發表せらるべしといふ

白露や無分別なる置どころ
 露なかく釜に露くる笕かな
 露の間や淺芽か原へ客草履
 此の露を持って寝たそや起たそや
 しら露や茨のはりに一ッつ、

宗 因 素 堂 其 鬼 角 貫 燕 村

寄書

●地理 經濟 世界物産誌に就きて

客員 野口 保興

富國強兵は國家を經營するもの、古來唱道する所なりと雖其方法の複雑なる其事業の困難なる徒に慷慨壯語するに由て達せらるべきものに非ずして國民全般の慎重なる講究と恒久なる忍耐とを待たざるべからず、東西の古代より歐亞の今日に及ぶまで國光を發揚し列國を操縦し偉業燦として一世を照すものは皆斯の如き勞苦の積累せる効果にあらざるはなし

國富まざれば強兵を用ふるに由なく兵強からざれば富國を守る能はず二者相待ちて離るべからず然れども其の法を講究するに至りては二者の間既に同じがらず、時代に由て更に其の趣を異にするのみならず國土の形勢氣候等に由て變を生じ國民の性質歴史等に基づきて差を呈す

故に兵強からずして國頗る富めるものあり國富ますして反て兵威四隣に振ふものあり、蓋し古昔にありては人類の生活簡單にして國家の經濟も亦複雑ならず動もすれば過剩の富は却て國民の武威に害あるが如き事實なきにしもあらざりき、斯る時に當りては健剛なる體力と強勇なる士氣とを有すれば一二の武器を執りて營に自國の安寧を保持するのみならず糧を敵に借りて千里其の

境域を廣むるが如きこと亦難きにあらざりき、然れども世界は長く此の如き情態に停止せず千變万化して其の歩武を進め人智愈々進みて技巧百出し日常百般の情態に於ても亦全く往時と其の趣を異にし戰時に要する所のものは莫大なる富力に待たざるべからざるに至れり、こゝに於て兵の強弱は富の制裁する所となり遂に富力は國家の安危に對して最も肝要なる地位を占むるに至れり本邦從來武を以て國を立て士氣凜然先を争ひて敵に赴く、故に開國三千年嘗て外國の侮を受けず胡元の強を以てするも亦遂に如何ともする能はざりき、是れ實に強兵の資を備ふるに基けるものにして維新以來兵制の進歩に頗る見るべきものありて空前の二大戦役に威力を振ひしは職として是に由るなり、然れども我が國是は斯の如き一二の成功を以て満足すべきに非ず同胞民族の増溢あるも福利之に伴はず航海通商外に張らんとするも製造工藝内に盛ならず教育衛生の機關完からず其の他各般の設備は尙ほ幼稚なるを免れず殊に戦後の經濟界には慘憺たるものありて國民の困弊を救済するの方策なきに苦めり、富力の補助なくんば氣力如何に剛健なるも空力たるに止まり海に幾百の艦艦を浮べ陸に幾萬の貔貅を備ふるも之が活用を爲すに由なからん、故に今日諸般の設備を完了し平時と戦時とを問はず列強と相馳逐せんと欲せば富國の策を講ずるより急なるはなし

富國の必要斯の如しと雖も之を得ること極めて困難なり富の關する所大にして廣し、之を得る

の法複雑にして容易ならず、富は吾人身神の勞働勤勉の產出物なり、國民一致協同して勞働勤勉するに非ざれば好結果を收得する能はず、然れども生産の業は着實忍耐を要すると同時に緩慢にして老若男女各々其の分に應じて之に當るを得るの便なり、彼の兵事の壯男に限る如きと大にその趣を異にせり

世間往々理財を論ずるに贅費の省くべきを切言するものあり、節儉素より必要なりと雖も元來他に產出ありて消費の標準を立つべきものを以て生産なき節儉は徒に萎縮を招くを免れず、故に先づ經濟の原則に従ひて積極的に生産の方法を講究するを勉むべきなり、斯の如き生産の方法は之を國民全般に知らしめざるべからず、普通教育に於て經濟は大要を了知せしめ根底的に實業思想を養成する事を務めざるべからず、而して生産の方法亦百端にして土地住民の特性と密接なる關係を有するものなれば教育家なるものは各々其の境遇に順應して適切なる方針を示して事業の進歩發展を圖るに資せざるべからず

凡そ業務に忠なるものは業務を愛するものなり、業務に愛ありて始めて困苦辛酸も忍耐しうるなり、而して斯る愛は斯業を熟知するに據りて生ず、親子の愛は知るの深きに由り朋友の愛は實際切嗟の間に生ず山河草木等無數の記念を止めて茲に限りなき愛郷の念も生じ同胞の習俗歴史等を熟知するを以てこそ愛國の念も生ずるなれ業務の智識を有し經濟の道理を辨へ各國に於ける生

業の情態を知り利害を明にしたる後に於て業務に従はゞ豫期の困難を排除し着々として事の進歩を樂むを得るなり

斯る知識を收得する上に於て經濟地理が貢獻する所蓋し尠少ならざるべし、抑々經濟地理なるものは各地に於ける天然の富源と住民の生業との間に存する相互的關係を研究して地球の自然的情態と吾人の經濟的活動との連鎖たるべき原則を發見せんと務むるにあり、而して斯る研究を遂行せんには先づ世界の各地に於ける各種の物産に就きて大要を了得したる後進みては物産相互の關係を歸納的に判知するを得、漸次に到達せんと期するは適當の順序ならんか

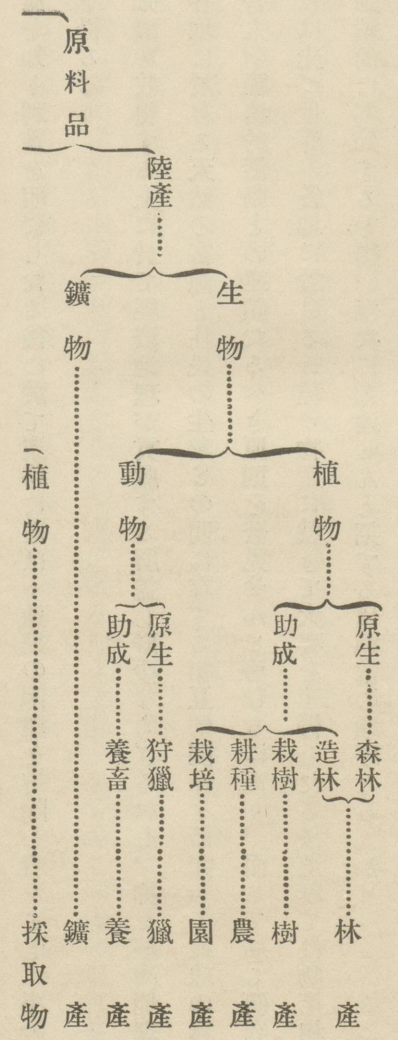
物産は動植礦の各種に亘り原生品を始めとし吾人の助力に成れる助成品工程の一樣ならざる製品類特殊の用途ある機械類等を包括し品種の複雑にして饒多なる殆ど極り無きやを疑はしむるも之を大別して原料品と加工品との二類となすを得べし、而して甲者は原生産と助成産とを含み乙者は製品類と機械類とに分かる

(一)原生産即ち自然品は森林(天然林)、原野又は河海、地中等より採取抽出若くは狩得漁獲せらるるものを總稱す

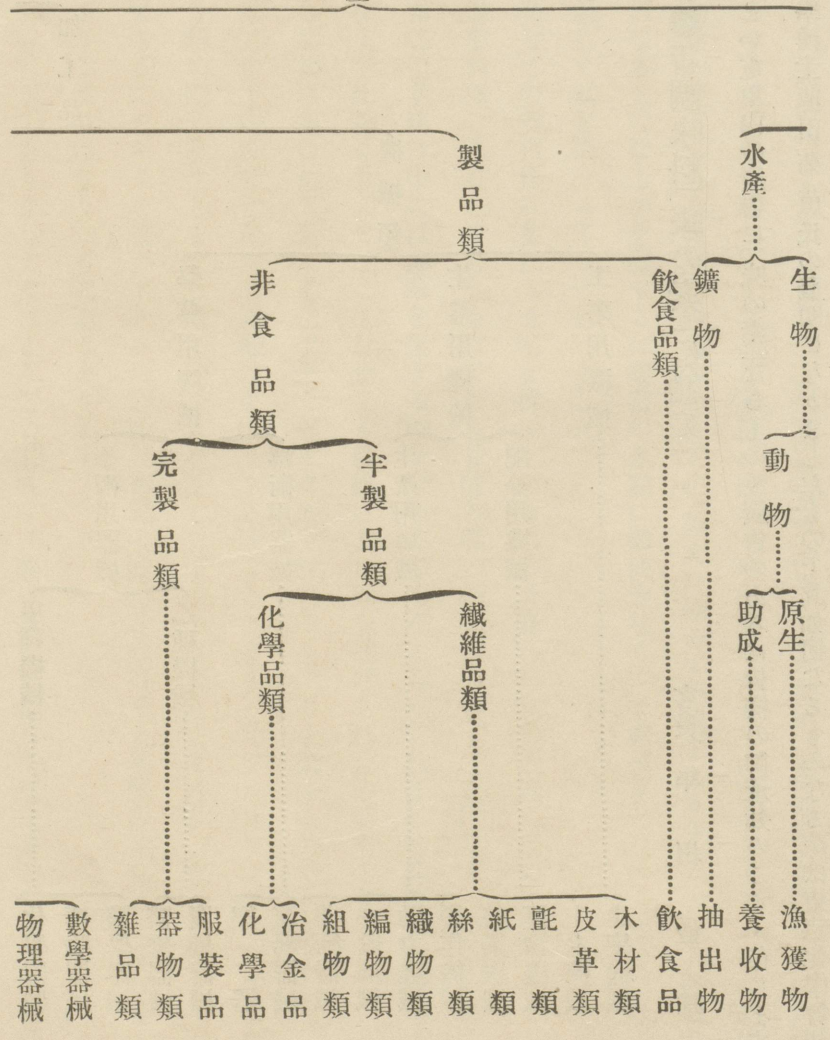
(二)助成産即ち助力的自然品は造林(人工林)、栽樹、耕種、栽培、又は養畜養殖を施し以て自然を助けその不備を補ひて得る所の結果なり

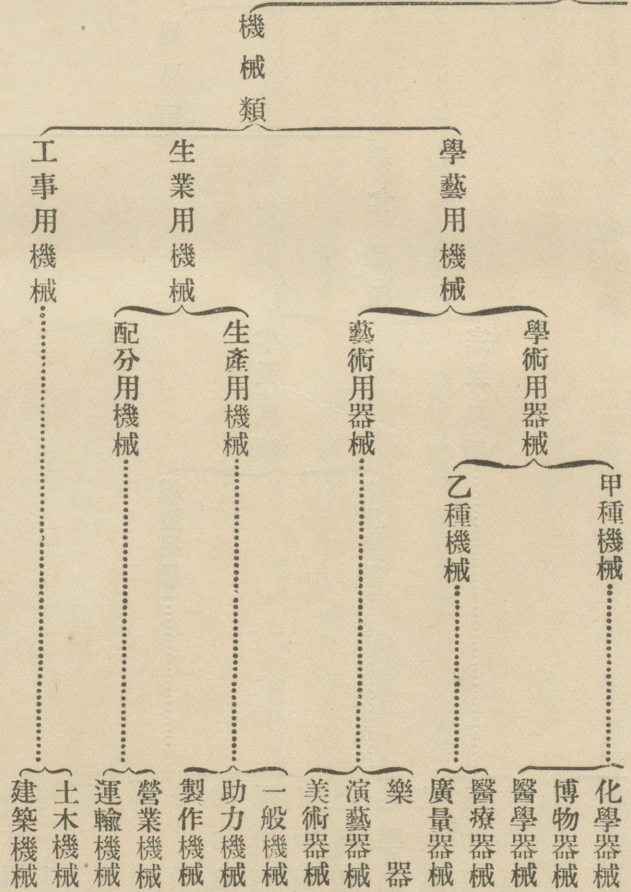
(三)製品類は原料に適宜の加工を施して製出したる各種の物品にして衣、食、住、その他吾人直接の需要を充たすに供せらるゝ普通の用品を總括す、變形を主とするものあり、變質に基けるものあり、工程を完了せるものと否らざるものあり

(四)機械類には學理の研究適用に資するもの藝術の發達改良を促がすものあり、之を學藝器械と爲す生業用機械は生産用と配分用との二派に分かれ甲者に原料の供給を助くる所の助力機械あり製品を作成するに用ひらるゝ製作機械あり、乙者に商業の營行に關するものあり運輸通信に關するものあり、工用機械には土木用と建築用との二種あり、試に一表を作りて物産相互の關係を示さんとす



物産





●新調味料「味の素」に就て

客員 平田敏雄

此頃新聞とか電車内の廣告に「味の素」なるもの、廣告のあるは皆様の御承知のこと、存じます、本品は理學博士池田菊苗氏の發明になりましたもので其如何なるものなるかは東京化學會誌第

三八帙第八冊(明治四十二年八月發兌、賣捌所東京市神田區表神保町三番地東京堂)掲載同氏報文に審かであります、申す迄もなく本品は家庭に淺からぬ關係のあるものでありますから卒業生諸君の該雜誌を一覽せられんことを希望致しますが(論文は極めて平易であります)尙ほ其抄録を掲げ旁其如何なるものなるかを報するは諸君の多數に御便宜ならんと考へましたから本會誌の一小部分を拜借して其を掲ぐることに致しました。

鯉節、昆布などの煮出汁は甚たよき味を持つて居るもので盛んに食品調理に用ゐて居ります、池田博士は從來別種の味として考へられてある甘酸苦鹹の四味の外に「うま味」なる一種別の味ありて鯉節昆布等の煮出汁中には此味を呈する物を含めるならんと考へられました此等の煮汁中より微量に存在する此物を分別せんことを企てられ終に其目的を遂げられたのであります。

偕て得たる品物は何にかと云ふと化學上でグルタミン酸ナトリウムと云ふものであります、グルタミン酸と申す一種の含窒素有機酸のナトリウム鹽であります、此グルタミン酸と申すものは蛋白質の分解に際し屢生じまする酸で何にも新らしきものではありませんが、之を苛性ソーダで中和して生ずるグルタミン酸ナトリウムか鯉節昆布等の煮出汁の有する美味の素なることは全く池田博士によりて明白になりたる次第であります。

本品は白色の粉末でありまして水によく溶解します其味は既に重量にて三千分の一以上水に溶け

て居れば感じ得らるゝそうでありませぬさうであります、(其味は濃く致しても左程強くなりませぬさうであります)、本品は前に申した通り多数の蛋白質の分解により生ずる上に昆布とか鰹節などにも自然に含んで居るものでありますから之を得る原料は澤山ありますが發賣致して居る品は現今鉄より製して居るそうであります。

○人は二つの眼をもつて生れたれども、舌

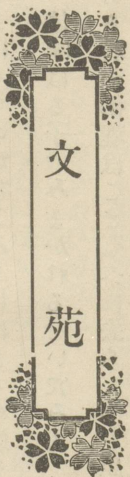
はただ一つである、是れ則ち二たび視て而

して後に一たび語るべきがためなり。

(モルトン)

○氣に入つた忠告が用に立つ事は稀れである

(ミロン)



●詠草

朝 顔

つゆのまの盛みよとやいさきよく日かけにしほむあさかほの花

秋 草 花

わが袖もかをるかとおもふ野邊ゆけは千草の花の風にみたれて

秋 蟬

なく蟬もいそかしけなりおのつから桐の一葉のちりそめしより

夕 顔

寐ぬる間にしほむもあはれよひくゝに盛をみする夕かほのはな

ある時求め來し萩の一鉢年久しくなれど花さかさりけるか

五とせふりにて咲き初めければ

幾秋のたもひかこりし萩のはなふりおもしろくさき出てにけり

下 田 た づ

萩

朝なくさきそはりつゝめもあやにつゆさへにほふ萩萩のはな
折にふれて

初たけを賣るこゑ近くきこゆらんあめふりつゝき秋さひにけり
村雨のさそふものにもあらくにふるたひことにあきの色そふ

阿 佛 尼

子をおもふ心のやみはさやかにもてらしかねけむいさよひの月

輕 氣 球

かきりなき人のちからを舵にして大そらにさへふねうかへけり

象

これなくは餌えはむわさもうからまし鼻こそ象のいのちなるらめ

道

遠くともまはりてゆかむこみちにはよらぬ教をきくにつけても

佐味はる子のみまかれるをいたみて

まことある君か御魂はことしへに去らしとぞ思ふ此の學ひ屋を

教へ子なりける某子の近き頃肺をやめりと
聞きけるにゆきあひければ

咲き出てむいろとはなしにほゝゑみてかれし薄の袖をさひしき
身にしみてあはれやいかに深からむもの思へてふ秋ふけにけり

○

花 見

花見ならて花に見らるゝ心地してうら恥しき花の下かけ

落 花

若草のみとりも深き庭の面に行方をかたる花の一ひら

夏 花

春去りて野末さひしき草かけに昔つみにしうまこやし咲く

夏 海

風は船を浪は人をそ玩ふ見るも涼しき夏の海面

秋 夜

思出に嘆く夜比を稻こきの聲賑はしき秋の山里

秋

衷

子

幼児の待ちにし秋よ我やこの柿は實れり栗も笑みけり

柿

色つきし柿の葉あつめよろこひし昔こひしき古里の家

折にふれて

波に月に人はあそへる和歌の浦を涙つゝみて我は行く哉

夫と子のかたみの家よ我ためにありし昔の物語せらるゝ

人命

たゞしはし憂しと樂しと思ふのみ露と消えゆく人の命よ

うれしきや夜寒の陳皮唐辛 成美

二日三日四日五日露の置きあまる 全

秋の山すそは時雨となりにけり 全

雑報

▲薬で病氣は癒らぬ 醫學士寺田豊作氏談に曰く

▲四百四病とは昔の事、今日では一層數が殖んで居るが實際薬を用ゐて癒る病氣は、僅に急性のリウマチスか、マラリア熱か、チブテリアか、梅毒位のもので、他の病氣に對しては、何等の特効薬もないのである。

▲薬で病氣が癒ると思つて居るのは、大間違だ、然らば何故醫者は投薬するか、患者は何んが爲めに九層倍以上の高い薬價を拂つて、怪しげな液體を飲まねばならぬか。

▲さいふに醫者が薬を盛るのは、病氣其者に對してではなく、其病氣の経過中に、稍もすれば起り易い種々の危険症を豫防する爲めである、も一つは、薬を盛らなければ、病人が安心しない。且つ自分も儲からぬ。つまりこれだけだ。

▲凡て病氣には一定の経過がある、薬は飲まなくとも自然に任かして置けば、癒るものは早晚癒る、嚴醫者にかゝつても、名醫にかゝつても一定の経過より早く、癒ることはない、唯

だ名醫にかゝれば中途に起る他の障害に對して最も安全だから、無論かゝる方が宜い。(毎日電報)

▲笑らわれる力 海老名彈正氏曰く、日本人には非常に

強い道徳心の種になるものがあります、夫れは何であるか云ふと笑はれると云ふことを、非常に嫌やに感ずる一稱の性質である、之れは餘程強い力を有し昔士が金を借りて其の證書に斯う云う事を能く書いた、若し何月何日に御返済致さす候節は、私の門前に於て御笑ひ下さるべく候と云ふやうな事を書いたもので、非常に笑はれると云ふことを恐れたものである、福澤先生の如きは、日本人を教育なさるのに殆ど片つ端から笑はれるぞと云ふことを以て推進して仕舞つた、そんな事をするぞ外國人に笑はれるぞ、外國に對して笑はれるぞ笑はれると云ふことを以て遂に推進して仕舞つた人である、日本人の心の中には笑はれると云ふことは實に難儀なのである。

之れは子供の時からもう餘程其の事が漫み渡つて居る、私の家杯の子供も何か悪い事をする、そんな事をするを笑はれるぞと云ふと、夫れで以てちやんと慎む、打つても叱つても聽かぬ飯を食はせぬぞと云ふても平氣で居るが、若し笑はれるぞと云ふたならば夫れを直ぐに止めて仕舞ふ、之れは餘程深く日本人の頭に這入つて居るので、兵隊でも何でも笑はれるぞと言はれたならば直ぐに死ぬるものである、そんな卑怯な事をするを笑はれるぞと云つたら最後、直ちに進んで戰場に這入んで行くのであります、此の笑はれるぞと云ふことを聽くと日本人の心には一種妙な感じが起る之れを義氣と言はうか之れを廉耻心と言はうか何ぞ言ふか何様さう云ふものがある云々。(教育實驗界)

▲英國費民救助費

英國地方政務院長ザヨーンパインズ氏が議會に於ける説明に依れば、同國の貧民救助費は一人一年二百九十圓五十錢の割合あるが、其内貧民に渡るは百二十圓五錢にして、他の百七十圓は救助者の官吏、催吏の給料なりと云ふ

▲全國幼稚園の現況

文部省の調査に據れば昨四十一年末に於ける公私立幼稚園總數三百八十五校にして公立二百

八私立三百七十七あり而して保姆總數八千六十二人幼児の總數三万五千三百三十二人之を小學校尋常科兒童總數に比すれば千人に付き幼児は八人一分三厘即ち尋常科兒童千人に就き幼稚園の保育を受くる者約八人の割合なりといふ、

▲全國小學校兒童數

來る四十三年度に於て供給すべき教科書の概數を定むる爲め文部省は曩に各地方廳官に通牒して本年四月末日現在の小學校兒童數を調査せしめたるに、北海道、東京、千葉、奈良、鳥取、徳島 の一廳一府四縣の未着を除き尋常科兒童五百八十五萬三千六百五十四人高等科兒童五十九萬四千七百九十九人合計六百四十四萬八千四百五十三人なり猶未着の分を合すれば七百三十四萬餘に至るべし。

▲大日本教育團講習會

に於て新歸朝者佐々木講師英獨教授法の特徴に就いて語つて曰く、

私は獨逸と英國とで同じの「蝸牛」の教授を見た。これは何んですか、こゝに何がありませんか、誰、誰、こゝに蝸牛を示して一歩々々確實に其知識を注ぎ込んで行くのは獨逸の學校である。英國にあると全くこれと異つて蝸牛を一つ宛各生徒に與へ鉛筆と紙とを持たして各自によく觀察せしめて記載

啞教員 十人 二十二圓 四圓 十圓

裁縫及洗濯 四人 十五圓 三圓 六圓

右の表に見る如く案外にして、殊に盲生の如きは其收入の點より見ると、普通官私立専門學校卒業生の比に非ず、前途甚だ有望なるもの、如し、殊に右の内に自宅治療料、及び臨時の收入は、凡て計上せざる勘定なりと。(時論)

▲石油から牛酪

米國スタンダアド石油會社にては石腦油を原料として、牛酪を製造するの新企業を起し、已に此程ニューヨークのペーオンに地所を買入れ、十二萬圓を以て製造所の建築に従事し、六十萬圓の豫算を以て、夫れなく器械類の注文をなしたり 右に就き一般の牛酪製造業者に一方からの恐慌を惹起しつ、ありと云ふ。

▲佛國人口増殖案

佛國々民は、其小兒出生率の低減を高めんとて、終始其努力を怠らず、從來屬々此爲に幾多の方法は考案せられたれ共、最近尤も注目すべき者は、學士會員リシエー教授と、經濟家の大家ポール、ルロア、ホーリユ氏とに依りて考案せられたる左二種の計畫なりとす。

▲リッソー氏は初生兒を除き、一般の嬰兒の出生に對して賞金を與ふべしと説き、其額は第二兒には二十磅、第三兒以上

▲盲生

最高 最低 平均

琴師匠	五人	百圓	十圓	四十二圓
病院按摩	十人	百二十圓	十五圓	三十七圓
鍼治按摩	十六人	百圓	五圓	三十圓
盲教員	二十人	六十七圓	八圓	二十一圓
▲啞生				
木工	五人	三十圓	十四圓	二十二圓
繪畫及寫眞	六人	三十三圓	五圓	十七圓

る手數で加ふるに危険が多く、屢火災の原因となるの實例が多いのを悲むのであります、従て家庭火燈火殊に都市生活に於ける家庭の燈火としては、適當のものと云ふことが出来ませぬ、茲に於てか燈火の研究は電燈と瓦斯燈とに移ります、而しこの比較研究は私の職業上忌憚なく申上ることを苦しう存しますから、重に統計とか先輩の學說經驗を掲げ皆様の御批判に任せます。

第一に光明の點であります、適當なる装置をすれば兩者共に或る最大限度の光明を得られます、少くとも幾千燭光を發しむることが出来ます。而し其光明の何れか我々に快感を與へませうか之を試みやうと思へは兩者の混用されて居る街衢に行いて比較せねばなりません、電燈は暗赤色で瓦斯は青白色であります、暗赤は重く青白色は清く之を物に譬へますれば、冬の粧に濃化粧した年増女が庭に折り立てる姿は電燈の色に相當すべく、裏若き乙女姿の優しげなるか春の花野に逍遙して居る有様は將に瓦斯の光の趣きて

ありませう、何れか吾々に快感を與へませうぞ、其點消に手數を要せぬ點に於ては、瓦斯は慥に電燈に一等を輸するものであります、之を得るの容易にして而も二六時中間斷なく、停滯せず供給されて居るものは瓦斯の特色であります。

安全にして危険の虞なく其衛生的なるの點に於ては又之を瓦斯に取らねはなりません、未だ嘗て火災の因をなしたことがなく、未だ嘗て生命に危険を與へたことは我國に於ては其例を聞きませぬ、之を倫敦消防署長の一千九百七年に於ける報告に見まするに、同年に於ける火災中電氣に原因したるもの九十五、瓦斯に原因したるもの三百四十七件で、之を引用家の數に比較致しますると、電氣に原因したるもの八九五に對して一、瓦斯に依るもの二七三九に對して一の割合であります。この報告に依りましても瓦斯の安全を保證することが出来ます。

更に又衛生上の點より見ましても、瓦斯の方が優つて居ると云ふ説が醫術の進歩に於て巨人の

稱ある、獨逸などで専ら行はれて居ります、則ち其要點を摘記致しますれば、電燈を室内に照すときは瓦斯性の場合の如く、有機物を含むた不潔な生産物が天井まで押し上げらるゝことなく之と口中から吐き出す炭酸瓦斯とが、常に体温同様の溫度を保つて室内の全空氣に混在して居ますから、空氣は不潔になる、之に反して瓦斯性を點する時は換氣作用をして益々善良ならしむるのみならず、瓦斯の中から出来ませぬ酸化物が壁の中の石灰に吸収され、こゝに酸化石灰を生じ酸化石灰が消毒作用を起して、小有機物の生活機能を破壊しますから空氣を最も善良にすることが出来ますと云ふのであります。

次は經濟の點であります、これは最重要な條件でありますから、周到な注意綿密な思慮を以て攻究せなければなりません、されば私は唯次に定價比較表を皆様の前に提供して、賢明なる御高究に任せます。

電燈 (終夜)	五斯燈代價
代價 一ヶ月分	一時間
五	六五〇
カ、小燭力ナシ	全上
一日五時間點	燈一ヶ月間

一〇	一、二〇〇	同前	同上
一六	一、七〇〇	同前	同上
三〇	二、七〇〇	〇、二九	四、三五
五〇	四、〇〇〇	〇、四〇	六、〇〇
七〇	—	〇、七二	一、〇八〇
一〇〇	七、〇〇〇	〇、九六	一、四四〇

電燈は終夜燈なれども實際普通の家庭にては終夜を要する場合少なく、必用なる時間は大抵四五時間に限らる。

更に百燭光の光を一時間使用すること、其使用量と燈火料との計算をなせば次の通りです

燈火の種類	燭	光	使用量	燈火科
五斯白熱燈	一〇〇	一〇〇	五方呎	〇一六
電燈 月極	一〇〇	一〇〇	六五	〇六七
同 量 拂	一〇〇	一〇〇	キロワット	〇六七
石油ランプ	一〇〇	一〇〇	合	〇六七
バラロン蠟燭	一〇〇	一〇〇	一七五	〇三五
			一六〇	四〇〇

雜誌「婦人世界」に嘉悦女史の「寄宿舎に於ける瓦斯使用の實驗」と云ふ文章がありました、その中に次の如くあります之は瓦斯燈の經濟なることを具体的に證明したものであります。

……燈火用として二十一ヶ所に取付けてありますが、何分ランプのやうに石油を注いたり掃除をしたりする手数がなく、亦之を仕舞つて置く部屋も入りませぬから至極便利です、ランプを使つて居ります時分には、ヤレ甲の室でランプを倒したの乙の部屋で、石油をこぼしたのと始終騒ぎか絶えませんでしたし、またそれが爲に畳に斑点をつけたり臭氣を残したりして随分困りました、けれども瓦斯にしてからはそんなことはなくなりまして、それに石油を使つて居ります時はまだ寄宿生が二十人ばかりで、室が七ツしかありませんでしたのに石油代が七圓以上かかりました、瓦斯にしてからは寄宿生も殖え室も十六七になりましたがそれでも瓦斯代は僅五圓か六圓しかかかりません、學校や寄宿舎のやうな所では本當に瓦斯をお用ひなさつた方が經濟でもあり安全でもあり至極結構だらふと思ひます……

猶瓦斯を御使用になつて居る方々から始終伺ひます所はマントルの脆弱なことであります、而なく只僅に低く狭い天窓を設くるに止まるか如きは頗る野蠻の沙汰と申さなければなりませんぬ。是れか爲に柱も天井も壁も若くは婦人の皮膚も頭髮も衣服も悉く燻せらるゝのみならず屢火災の原因を醸し、輪奐の美を極めた高樓も一朝にして烏有に歸せしむるが如き慘事に至るのであります斯く不潔汚穢なるか爲に一家の主婦にして一家族の健康と幸福の源泉ともなるべき庖厨の事を自らするを厭ひ之を婢僕に一任して顧みさるか如きの弊風を生じたものであります而して婢僕も亦この塵埃裡にありて如何に苦しんで居るでありませんか、之を専門醫に聞きますに婢僕の眼病は重に庖厨から起るものであると云ふ、雪の朝あれも人の子樽拾ひ、婢僕となる程の子女に幸福なものは少なう御座います而も其可憐なものに迄其害毒を及さしむるに至りてはよし多少の犠牲を拂つても之を改善することには誠に焦眉の急務であります、殊に之を経済上の見地から申しましても東京の如き地代貴き所にありて従來の如き大なる臺所を控えて

し私の實驗によりますと一個のマントルで三ヶ月以上六ヶ月は充分持續せしむることか出来ます、其素質は勿論脆弱ではありませんがそれは御取扱方如何によることでもあります。以上を以て瓦斯燈に於ける大体を申し上げました、其結論は別に申し上げませんが御腦中にあること、信します。

二 家庭用燃料としての瓦斯

建築術が次第に進歩致しまして、今日では家屋の構造間取り等が、衛生上から見ましても便利上から申しましても、間然する所なきに至りましたか、只遺憾とすべきは、庖厨の改良充分ならざるの點であります、これは古來庖厨を輕視いたしました、習慣上の缺點と、之に伴ふ智識の淺薄に起因するものでありまして、主婦の家庭上に於ける勢力の多少も亦其一原因を成して居たものであります。兎に角日本の庖厨は慥に輕々閑過視されて居たのであります、薪炭の如き煤烟多く塵埃夥しき燃料を用ひながら、煙突を設くるでもなく又他の特殊の設備をなすでも

は尠からざる損失を招くものであります。

庖厨の改善に伴ふて起るべき問題は燃料の改良であります、従來の庖厨の不完全は大部分燃料の不良に起因するものであります、されば庖厨の改良と云ふ問題は取りもなほさず燃料の選擇の良否なる問題であります。

私か麴町に住つて居ました時分の事であります西隣の會社員の家ではは盛に石炭を燃します、東隣の華族の邸でも又石炭を燃料として不完全なる烟突から煤烟を吹き出して我庭園から室内までをも襲ふて來ます、其臭氣と有毒なる煤烟の突撃に合ひ庭園の樹木は爲めに枯死するに至りました、私はこれ等の状を目撃して燃料の改良は目下の急務であつて斯の如き不完全なる煙突に改善を施すことは隣保に對する一種の義務であると感じました、私の家では其時分薪炭を用ひて居ましたが庖厨の不完全なる爲煤烟は低い天窓から遁け出す其煤烟は石炭の如く有臭有毒ではないにしても隣保に迷惑を感せしむることとは別に撰ふ所はなからふと思ひ種々苦心して

居りましたが、或る雑誌に米國の某都府では公衆衛生上且は市の体裁、安全清潔を保つが爲議會は薪石炭を燃料とし之に代ふるに瓦斯及瓦斯コークスを以てする事を議決した爲市の空氣は非常に能くなる火災等の危険を防止し得たと云ふ記事を見ました、そして其議會議事録中には薪や石炭より出づる煤煙が如何に空氣を汚すか衛生上如何に危険なるか並に之に起因した火災數等が數字に依つて最も緻密に記されて居るのを見て此等の害毒の豫想以上であることを知ると同時に彼の國の公衆道德の發達を羨み、我が貴族並に上流社會の人か自己中心なるを憤慨いたし、吾々は市民の義務とし都市生活者の義務として先づ燃料の改良を叫ばなければならぬと思ひました、月影の草より出で、草に入ると云ふ武藏野も只今では人家櫛比せる世界屈指の大都會となり今後人口の増加に伴つて人家の稠密は日一日と其度を加へ、今後の東京市は幅員に於て膨脹すると同時に虚空に向つて益々膨脹いたすやうになり従て空氣は次第に混濁し火災の

危険は一層甚しく其度を加へますことは數千燭光の瓦斯燈を見るよりも明であります此時に當り燃料の改善則ち薪や石炭の使用を廢して瓦斯や瓦斯コークスの使用を勧めるのは實に今日の急務であらふと思ひます。
而しなから燃料の如き日常品にありては經濟といふことを根底に置いて議論せなければなりません、瓦斯や瓦斯コークスか如何に全完なる燃料といたしましても其價に於て他に比し不廉であるならば、吾々は到底之が使用に堪えることが出来ませぬ、私はこの問題に答ふる爲精密なる實驗に依りました炊爨に要する瓦斯代量を左に掲ぐることにいたしました。

炊量	炊爨に要する時間	同上瓦斯代
一升	十分間	一錢弱
二升	二十分	一錢七厘
三升	二十五分	三錢
四升	三十分	三錢六厘
五升	四十分	四錢二厘
六升	四十五分	四錢九厘

瓦斯コークスを用ふれば約二分の一にして辨し

られます薪炭に就てはまだ充分の試験を致しませぬから比較研究をすることが出来るのは甚だ遺憾とする所であります、而しなからこれは皆様の既に御研究になつて居る所、殊に今日の如く薪炭の價が日一日騰昂いたしましたは到底此以上の經濟と云ふことはありませぬ、よし百歩を譲つて瓦斯の換價が薪炭その物の換價よりか多少不廉なりとするも瓦斯の使用は慥に經濟なりと斷言するに憚りませぬそは瓦斯には附帶せる多くの利益を持つて居るからであります。

瓦斯には煤烟塵埃がありません、故に台所の掃除に多くの人手を要しませぬ且二六時中間斷なく鉄管により供給されて居り捻子一つで點消自在でありますし其火熱が頗る高いものでありますから炊爨に多くの時間を要せず最も輕便になります、所謂經濟なりと申す内には換價の多少は其部分であることは勿論でありますが時間の經濟勞力の經濟輕便安全清潔等の觀念も之を度外視する

ことは出来ませぬ。

近來瓦斯應用の眞價か一般に了解されまして毎日百以上の新申込に接し常に工事に逐はれて居る有様でありますこれは決して一時の現象ではなく、自然の趨勢であることを信し喜んで居る次第であります、どうか充分御研究を願ひます當會社樓上に庖厨並に陳列所を設けて居りますから隨時御觀覽を願ひます、

(附言) 校友會同窓會等の御催しの節御命に依つては和洋の瓦斯器具を持參致し實際使用の上御説明もいたしますし、菓子位は焼かせまして實費で差し上げますから御望みの方は御遠慮なく御申付を願ひます。

一二二三子
平目復仰視
雨口無一舌
卽是我宗旨
惠
寂

明治四十二年十月二十一日印刷
 明治四十二年十月二十五日發行

東京市本郷區元町二丁目六十六番地

發行所 櫻 蔭 會

編輯 前 同 所
 行輯 者兼 黑 川 龍

東京市神田區旅籠町二丁目十一番地

印刷者 安 藤 忠 容

印刷所 廣 業 館

現今各家庭の最大問題

髪油の何れを用ふべきか

みやげ油は.....最良の純粹椿髪油なり
 みやげ油は.....村井荳齋先生の賞賛を博したる帝國中唯一の最優等品なり

(此の商標に御注意)

みやげ油



東京市形町通三宅堂本舗

電話 浪花園 二六〇番
 振替 口座 東京 八七五番

定價

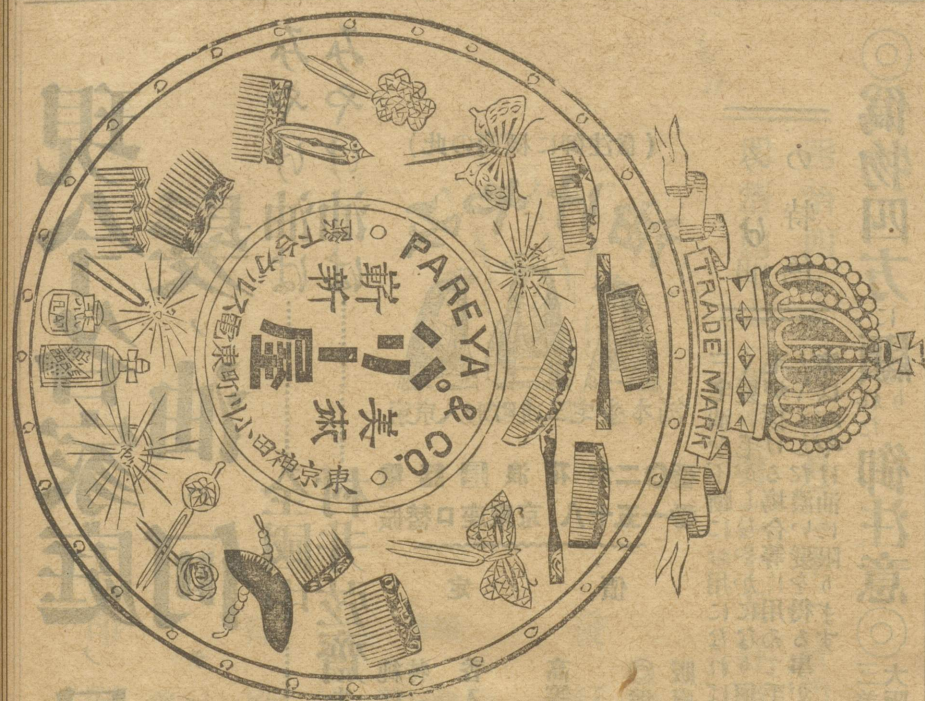
純粹椿みやげ油 壘詰	特大	八十五錢	大	四十五錢
特	中	五十五錢	小	十五錢
香入みやげ油 精製	大	三十五錢	中	二十錢
小	三十五錢			
高等みやげ香油	大	四十五錢	中	二十五錢
小	四十五錢			

◎送料孰れも十二錢郵券代用一割増

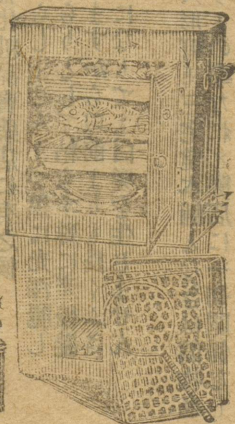
販賣は全國重なる小間物化粧品賣藥店に有之候
 ◎三宅油を不斷にお用になれば第一髪毛のさきからしませんまつ黒に光澤麗しく髪毛が抜ける場合等に用ゐて毛の發育を速やかにしますから以前よりも長くふさふさとした濃い髪を得る事が出来ます。また老年になりても白髪を生じません等はみやげ油に限ります

みやげ油の特色

◎偽物四方に顯れた御注意 ◎三美人商標の下に東京市形町通三宅堂本舗となきは偽物也
 大阪に同一店名の者ありとの事なれど弊店に一切關係なし



專賣特許
臺所重寶
名和式
テンピ

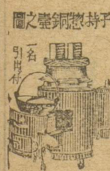
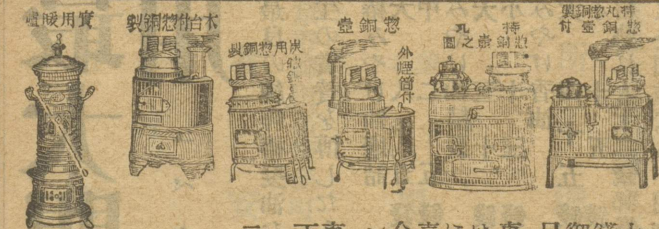


大ニ圓七十錢中ニ圓廿
錢小一圓七十錢說明書
御希望の方へは無料送
呈

專賣特許名和式テンピ
は曾て實業之日本誌上
に於て一改良されたる
臺所重寶器として紹介
されし和洋兼用のテ
ンピなり

許特カマト据風呂

名和商店



ツルゲーネフ大作
第二版發賣

戸川秋骨 敲戸會同人共譯

獵人日記

盛裝菊判一冊函入
紙數七百七十頁
定價金貳圓卅錢
十一月卅日
特價金貳圓
送料拾六錢臺清韓四拾錢

新興文學之代表作

翻譯文學之一光彩

十九世紀の大傑作たる本書は有らゆる家庭に推薦すべき清新なる近代小説の
クラシック也深厚ある同情を以て直寫されたる社會各階級の寫生あり

發行所

東京本郷弓町
振替七六七四

昭文堂

電話下谷
三四四一

賣捌全國各書店

僅に壹錢内外の瓦斯コーク
スにて三時間の燃焼を持続
し五六人の生活に必要な
煮煮一切を辯し得るもの只
單りミよしこんろあるのみ

吾人は之の光輝ある國に生れ而して國に報せんが爲め各其天職
に盡さんとする生活の意義茲に存す
己に生活あり有要の物資を求めざるべからず茲に於て其物資を
研究し長短を考覈するの必要や起る
米も肉も菜も皆吾人生活の資材あり然して燃焼の力によりて吾
人に各其特有の滋味を薦む然らば燃料こそ實に吾人生活の大要
素として甚大の顧慮を拂ふべきに非ずや
於之ミよし組は現時吾人の使用しつゝある木炭と瓦斯とコーク
スト其何れが吾人の生活に利益なるかの比較問題に對し聰明な
る本紙の讀者たる櫻蔭會員諸君の判断を煩さんとする

製作販賣元

東京九段坂下

ミよし組工業部

電話 櫻蔭町三三三番
振替口座東京一八七六二番

郵便はかき

櫻蔭會報第貳拾號讀者諸姉

貴下

家庭用特撰
瓦斯コークス
壹表
金四十八錢

The Miyoshi-Konro

銅製鉄製各種



耐火粘土製 金卅五錢

造花原料

東京九段坂吉住商店

電話番町二〇五六番
振替貯金口座東京第六六七九番

營業科目

- ▲造花材料 ▲造花器具 ▲造花及半製品 ▲造花用染料
- ▲造花用籠類 ▲摘ミ細工材料 ▲造花裝飾用達

◎營業目錄御入用ノ方ハ二錢切手封入東京九段坂吉住商店宛申込マルヘシ直ニ進呈可仕候



發賣御案内

最新式染料

拾貳種及拾八種

使用法説明書添附

天野卯兵衛商店

東京市日本橋區横山町壹丁目拾六番地

電話浪花一六四三番
振替口座四九七〇番

れあ込申御入封

錢四料送郵は内案業營